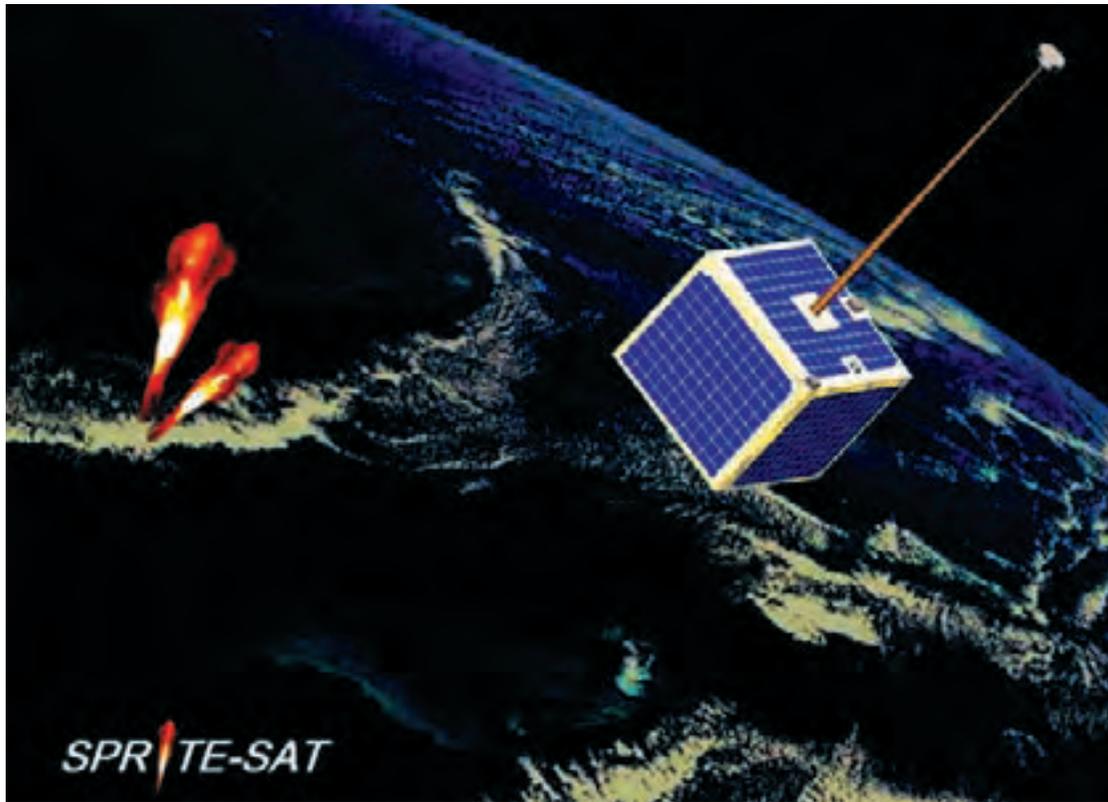


人類の未来という「作品」は、理想的なコラボレーションで誕生する。

産学連携で知的資源を世界に発信

産学連携により低コスト・短期間で実現するSPRITE- SAT計画



東北大学の理学研究科・地球物理学専攻と工学研究科・航空宇宙工学専攻が協力し、総重量50kgクラスの超小型科学衛星 SPRITE- SAT 計画を進めている。JAXAの大型衛星の相乗り（piggyback）衛星として、2009年1月に種子島宇宙センターから打ち上げられる予定だ。

通常の衛星は、本体製作だけで数10億から数100億円の費用がかかり、構想から打上げまで10年以上かかることもあるが、SPRITE-SATの衛星および地上設備の開発・製作・設置費用は、主に科学研究費補助金・特別推進研究（約3.5億円 / 4年間）で賄われ、構想から約4年

で打ち上げ、組み立て開始から完了までも約1年と短い。こうした低コスト・短期間でのミッション実現により、ほぼ同時にスタートした他国の計画に大きな差をつけることになる。それを可能にするのは、高い意欲を持った学生・スタッフと、一般企業との共同作業だ。衛星のシステム設計、通信設備・伸展機構、搭載観測機器の製作など多くの場面で、高度な技術を持ち小回りが利く企業の協力なしでは、この衛星プロジェクトは成り立たない。

民間企業等と組織的に連携（連携協定により産学連携を積極的に展開）

協定締結年月日	民間企業等名称	目的
2007. 8. 3	宇宙航空研究開発機構 (JAXA)	共同研究の推進、研究者の相互交流、大学院連携講座等による若手研究者の育成、研究施設、研究設備の相互利用を目指す。
2008. 7. 25	(財) 実験動物中央研究所	共同研究の推進、研究者の相互交流、若手研究者の育成、研究施設、研究設備の相互利用を目指す。
2008. 7. 28	日本電信電話 (株) (NTT)	共同研究の推進、研究者の相互交流、若手研究者の育成、研究施設、研究設備の相互利用を目指す。



寄附講座「地域経済金融論」開設

七十七銀行と東北大学は、地域経済金融をテーマとした寄附講座「地域経済金融論」を本学大学院経済学研究科に設置した。七十七銀行と本学は2007年1月、協力して地域貢献や地域経済活性化を図るため、産学連携協定を締結しており、その一環として講座を開設した。10月から「地域経済論」「地域金融論」の2つの大学院科目を開講する。



「脳トレ」で新研究施設誕生

携帯ゲーム機の大ヒットソフト「脳を鍛える大人のDSトレーニング」を監修した東北大学加齢医学研究所の川島隆太教授は2008年4月、脳内の血流変化を観測する各種計測装置などを備えた新施設を公開した。川島教授による産学連携の成果に基づく施設整備は、2007年の動物実験施設に続いて2件目となる。



産学官連携推進会議で高く評価される実績

内閣府などが主催する産学官連携推進会議では、産学官連携で大きな成果を挙げ、先導的な取り組みを行うなどの貢献をした事例について功績を称える功労者表彰を実施している。2007年度は東北大学から下記の2教授が選出され、さらに2008年度にも高橋弘教授が「国土交通大臣賞」を受賞するなど高い評価を受けている。

科学技術政策担当大臣賞

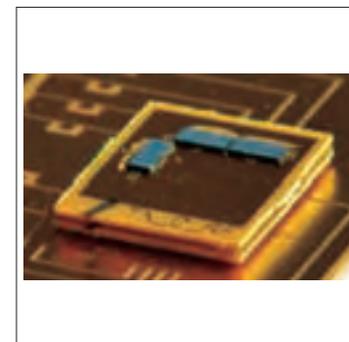
堀切川 一男 東北大学工学研究科 教授
三和油脂株式会社
株式会社白田製作所



米ぬかを原料とする高機能・多機能炭素材料 RB セラミックスの開発と応用

文部科学大臣賞

坪内 和夫 東北大学電気通信研究所 教授
日本電気株式会社
三菱電機株式会社



産学連携による次世代モバイルインターネット端末の開発

国土交通大臣賞

高橋 弘 東北大学環境科学研究科 教授
株式会社森環境技術研究所
ボンテラン工法研究会



繊維質固化処理土「ボンテラン」による高含水比土の再資源化技術